

子宮頸がんをワクチンと検診で予防しましょう

子宮頸がんって何？

子宮頸がんは、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで、原因のほとんどがヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルス感染によるものです。女性の多くが一生涯に一度は感染するといわれています。^{※1} 主な感染経路は性行為（キスやオーラルセックスを含む）による性的接触で、コンドームでは防ぎきれません。20代から診断される人が増加しはじめ、30代後半～40代後半で患のピークを迎えます。感染して症状が進行すると健康状態を著しく害す場合や、死亡する場合があります。



国立がん研究センター がん情報サービス がん種別統計情報 子宮頸部 https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/17_cervix_uteri.html

初期の段階では、自覚症状はほとんどありません。

子宮頸がんは、早期に発見し、早期治療につながれば比較的予後の良いがんです。ワクチンによる「予防」と、検診による「早期発見」が重要です。

※1 感染しても免疫によって自然消滅する場合がほとんどですが、一部の人はがん化します。どのような人が、がん化しやすいのかは未だ判明していません。

日本で子宮頸がんと診断された数は10,353例（2020年）

日本では、年間約2,900人が子宮頸がんによって死亡しています（2023年）

子宮頸がんワクチンを接種しましょう

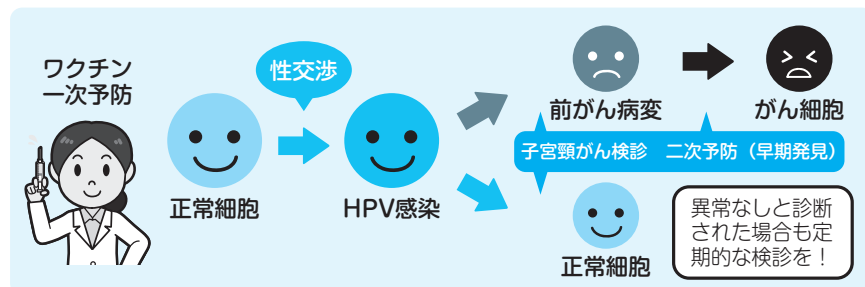
性交渉を経験する前にワクチンを接種し、感染のリスクを下げるのが推奨されています。シルガード9ワクチンはHPV16型と18型に加え、ほかの5種類のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます。^{※2} 性交渉を経験している人であっても、効果はあります。

※2 HPV16型と18型のウイルス感染が、子宮頸がんの原因の50～70%を占め、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮頸がんの原因の80～90%を占めます。

厚生労働省作成リーフレット「小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ HPVワクチンについて知ってください（詳細版）」

子宮頸がん検診を受診しましょう

HPVには様々なウイルスの型があり、ワクチンで全てを予防できるわけではありません。予防のためには、ワクチン接種に加え、2年に1度の子宮頸がん検診を受けることが重要です。子宮頸がん検診を受けることで、がんになる可能性がある細胞（前がん病変）や、がん細胞の発見につながります。市では対象者に受診券を送付しています。



予防接種・検診の詳細は御坊市HPよりご確認ください



検診▶



◀予防接種

HPV ワクチン接種に関する相談窓口について

接種に関する不安や疑問等、ご相談ください。

和歌山県 福祉保健部 健康局 健康推進課 ☎073-441-2643 FAX073-428-2325

※接種後、健康に異常があるときは、接種した医療機関にご相談ください。

